

⑧ 学校支援ボランティアの活用に関すること

【小・中学校】

- ・学校支援地域コーディネーターの配置に伴い、昨年度と比較すれば、飛躍的に学校支援ボランティアの参加が増加した。様々な学習活動に地域の方の協力をいただき、地域と学校の関係がこれまで以上に良好になると共に、学習内容の充実が図られた。
- ・主に学級担任から支援してほしいことを「講師・ボランティア依頼書」に記入し、学校支援を進めていった。学校支援ボランティア側はコーディネーターと教頭が常に連携をとりながら事業を進めている。
- ・特別な支援の必要な児童に対して、学生のボランティアを活用し、個別の支援の充実を図ることができた。
- ・不登校の生徒に対しての対応を学生ボランティアに協力してもらっている。また赤ペン先生として、朝自習の採点を地域の方8名に行っていただくと共に、個別の指導にも当たってもらっている。
- ・学校支援ボランティアの活用について、夏季休業中の研修で地域コーディネーターとの意見交換会をもったことで相互の理解が深まり、より緊密に連携が取れるようになった。
- ・挨拶ボランティアを軸に、本年度は1年生下校見守り、参観子ども預かり、授業支援、体育的行事の支援まで幅を広げた。年度当初に会合を開き、ボランティアの必要性を説明したところ快諾を得たため、本年度より実現ができた。
- ・「はげまし隊」による数学科、面接指導の支援を行ってもらった。授業中のみならず、長期休業中や昼休みまで補充学習に取り組んでもらえた。

【県立学校】

- ・大学と連携し、地域理解を深める総合的な学習の時間に取り組んだ。
- ・総合的な学習の時間において、外部の人材を積極的に活用することで、教育内容の充実を図ると共に、担当職員の負担を減らすことができた。